

次世代につなぐ 進化するまちづくり

2023年5月20日（土）

立命館大学
村 橋 正 武

1

講演の流れ

- 1 村橋 プロフィール
- 2 生駒市の発展状況
 - (1) 人口推移
 - (2) 第2工区周辺の大規模住宅地開発
- 3 関西文化学術研究都市のあゆみ
 - (1) 30年のあゆみ
 - (2) 立地施設の急増
- 4 高山地区まちづくりの取組み
 - (1) これからのまちづくり
 - (2) 高山地区への期待
 - (3) まちづくりの取組み

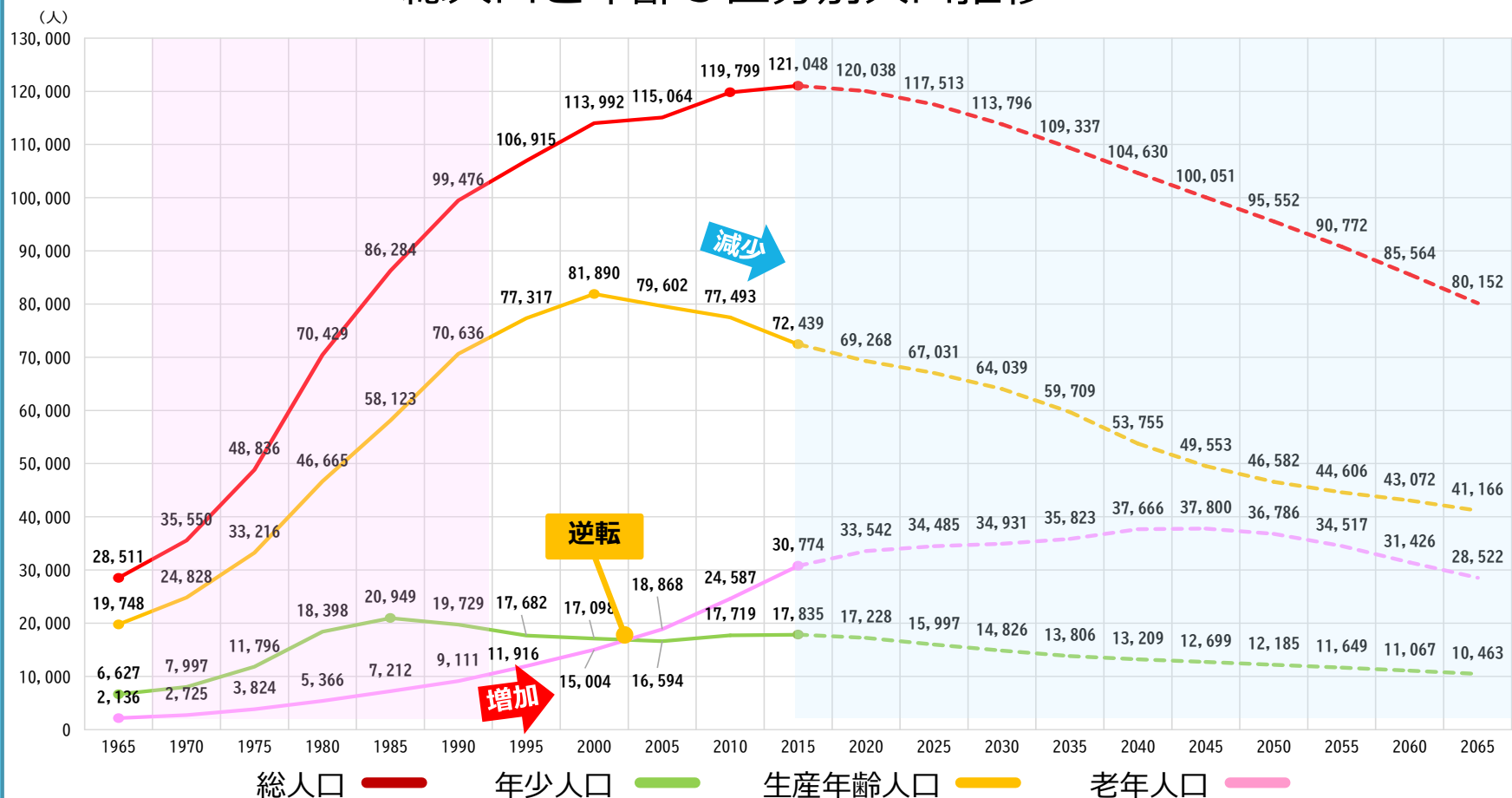
村橋プロフィール

- 1 京都市生まれ（学生時代、現在の大学教員時代）
- 2 国交省勤務
（主として本省都市局、東京都・大阪府に出向）
- 3 若干21歳の工部大学校学生（田辺朔郎）の『びわこ疏水計画・設計・施工』により京都市が再生復活したことに啓発され、まちづくりをめざす
- 4 30年ほど前から関西学研都市の整備に携わり、生駒市との縁が始まった

生駒市における人口推移

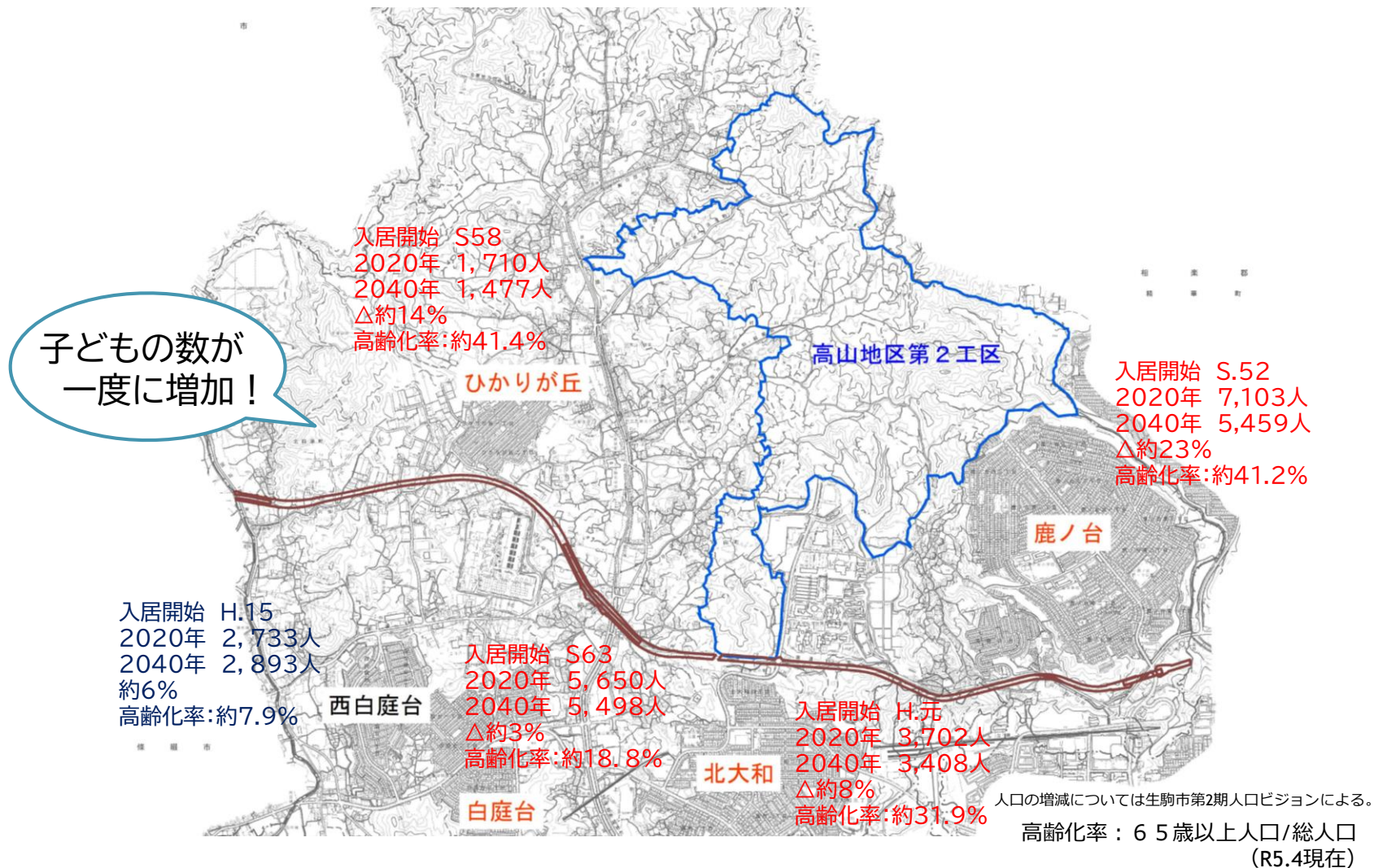
- 平成25(2013)年の121,331人をピークに**人口減少**に
- 高齢化の急速な進展

総人口と年齢3区分別人口推移



出典：1970年までの人口は国勢調査、1975年から2015年は住民基本台帳より作成
 2020年以降の人口は国立社会保障・人口問題研究所の『日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)』より作成

高山第2工区周辺の大型住宅地開発



→時が経つと住民が一樣に高齢化、空家が課題に

→住宅開発で人口は増え、賑わいが生まれるが、持続させることは困難

関西学研都市30年のあゆみ

53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	R1	R2	...
* 関西学術研究都市調査懇談会発足				* 関西文化学術研究都市建設推進協議会設立				* 関西文化学術研究都市建設促進法公布施行				* セカンド・ステージ・プラン策定						* サード・ステージ・プラン策定						* 新たな都市創造プラン策定																				
企画立案 合意形成 調査研究 立地促進 交流支援 情報発信				* 国際高等研究所設立				* 国際高等研究所開所				* 国立国会図書館関西館開館						* けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)開所																										
				* 国際電気通信基礎技術研究所開所				* 地球環境産業技術研究機構開所				* けいはんな情報通信融合研究センター開所						* 京都大学大学院農学研究科附属農場開所																										
新産業の創出 地域産業の振興 広域連携				* 同志社大学・同志社女子大学田辺校開校				* 量子科学研究センター研究所開設				* 同志社大学学研都市キャンパス開校						* 京都府立大学農学部附属農場開所																										
				* 奈良先端科学技術大学院大学開校				* 大阪大学大学院工学研究科自由電子レーザー研究施設開所				* 京都市立大学学研都市キャンパス開校						* 理化学研究所「iPS細胞創薬基盤開発連携拠点」開所																										
* 関西文化学術研究都市推進機構設立				* 京都府「けいはんなベンチャーセンター」開設				* 国際戦略総合特区に選定						* 都市エリア産学官連携促進事業採択				* ヘルスクエア開発地に指定																										
				* 知的クラスター創成事業選定				* 次世代エネルギー・社会システム実証地域に選定						* 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点推進プログラム採択																														
* 関西文化学術研究都市推進機構設立				* けいはんな新産業創出・交流センター設立				* RDMM支援センター設立						* 推進機構が公益財団法人へ移行																														
				* 推進機構・センターが統合				* 推進機構が公益財団法人へ移行																																				

- ・法施行から30年以上が経過
- ・成熟期に入っているものの、未整備クラスターの開発が課題

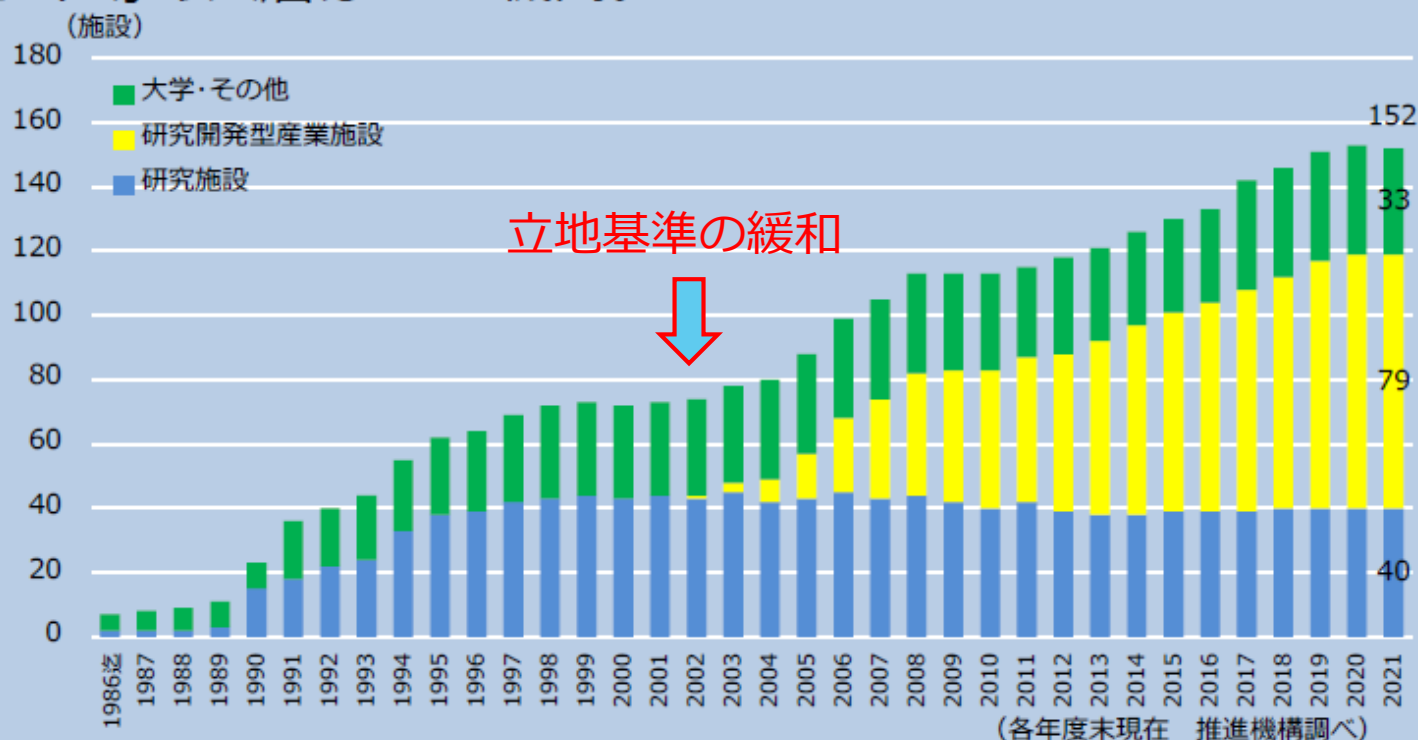


立地施設の急増

文化・学術研究の振興

立地施設数

2002 年から研究開発型産業施設の導入により増加。
2021 年度末で 152 施設。研究所内ベンチャー企業やテナ
ント等の入居は 164 機関。



- ・立地基準の緩和により立地施設数が一気に増加
- ・かかる高山地区への期待

これからのまちづくり

人口増加時代のまちづくりは・・・

→郊外で暮らし都心部で働く

住まいと働く場を棲み分け



人口減少・高齢化時代のまちづくりは・・・

→自宅と働く場が近い(職住近接)

テレワークなど在宅で働くスタイル(職住合一)



⇒時代の変化や社会的なニーズに
対応する柔軟なまちづくり

高山地区への期待

- 背景 社会経済の潮流やニーズの変化への対応
- 高山地区のセールスポイント
 - ①大都市近郊での大規模な市街地空間の存在
ー163号バイパスの整備
 - ②最先端の科学技術を研究する奈良先端科学技術大学院大学の磁力
 - ③緑豊かな自然と文化が共生する心豊かな暮らしを実現するまち



未来の子どもたちへの財産をつくる

大都市近郊での大規模な市街地空間

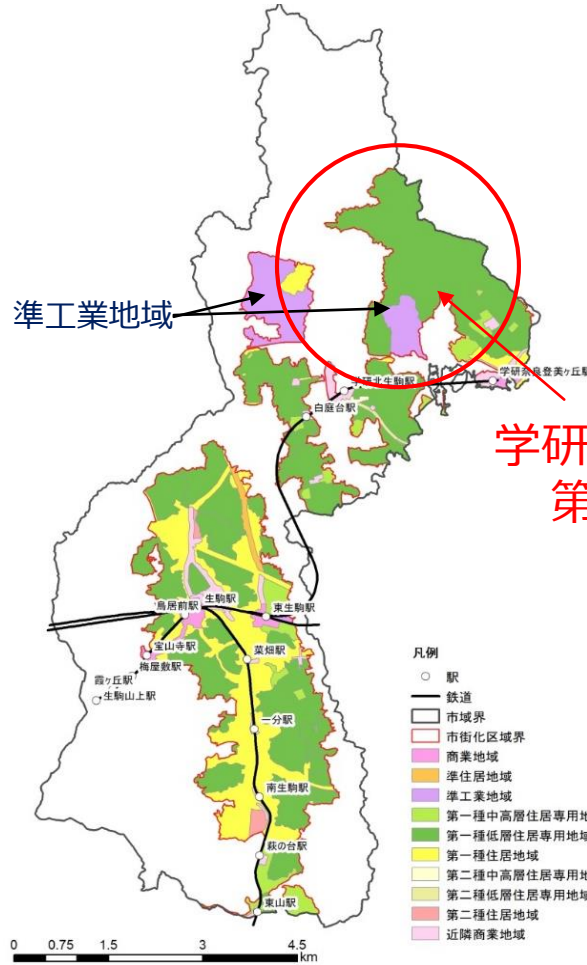
大阪



京都



奈良



生駒市用途地域図

・約288haもの市街化区域が
未開発で残されている

国道163号バイパスの整備



・都市部へのアクセスがさらに向上

奈良先端大を中心として人の交流を生むまち



都市型産業機能・都市機能・住機能

- 研究・イノベーション開発を行う企業・研究施設を集積し、新しい技術や価値の創出を目指す。
- 生活利便施設等の集積・誘導、居住実験都市の実現を図る。

奈良先端大は学研高山地区の磁力!



平成3年10月開学



高山サイエンスプラザ

<創出イノベーションの例>

- IPS 細胞の活用など医療分野の研究を行う施設
- AIなどを活用した全自動化産業システムの開発施設
- 大学・研究施設のデータ保管システム対応施設
- 内外の居住者や就業者の生活を支える利便施設
- 地区のシンボルになる公共的空間

自然と文化が共生する心豊かな暮らしを実現するまち



自然型産業機能

- 周辺の自然環境や歴史・文化資源を活かしつつ、最先端技術を取り入れた新たな産業の創出を目指す。

緑豊かな自然と文化との共生



高山竹林園



くろんど池（高山町）



高山茶筌・竹文化

<創出イノベーションの例>

- 生産から加工、販売まで一連で行う **6次産業施設**
- 最先端技術を活用した省力化・自動化した **スマート農業**
- **研究者**や観光客のための **滞在型宿泊施設**
- 木材などを活用した **バイオマスエネルギー**⇒**脱炭素** など

まちづくりの取組み

- ねらい 時代の変化や社会ニーズに対応した柔軟なまちづくり
 - 段階的開発とまちの新陳代謝を高める
 - 職住近接や職住合一の実現
- 課題と対応
 - ① 区画整理手法により道路・公園・下水道などの公共施設と、働く場・生活の場の整備、自然環境の保全を一体的に進める
 - ② 約1000名の地権者の皆さんの合意形成
 - このため **「8割・2割の精神で」**
 - ③ 地権者と公共（市）が力を合わせて取組む
- 目標 次世代の子どもたちのために誇り高き優れたまちづくり

まちの新陳代謝を高める

順次段階的にまちづくりを進めることで
人や産業が段階的に流入

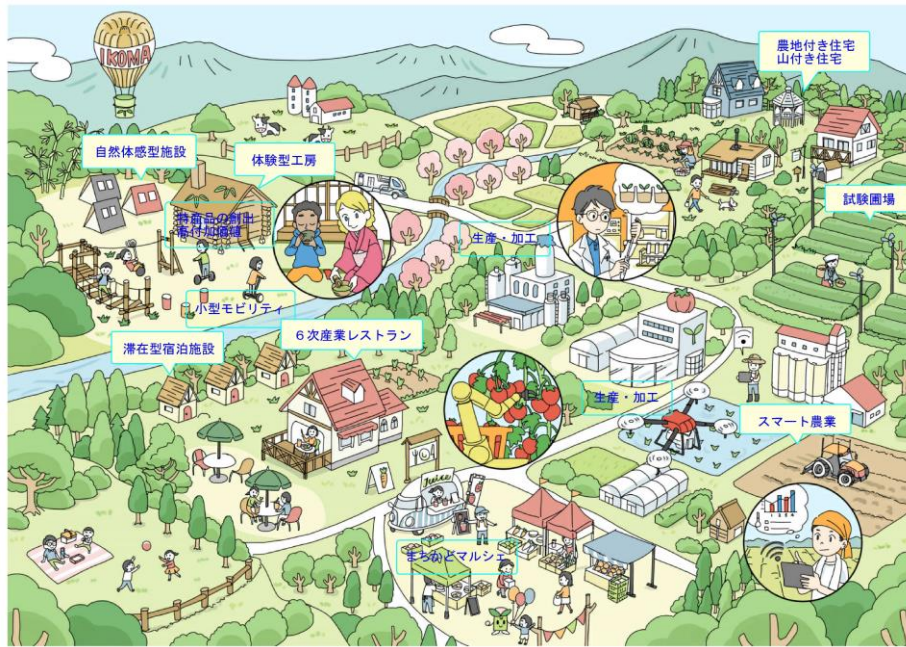


タイミングがずれることで…

- ・多様な世代・産業が存在するまちに
- ・住み替えや技術革新のサイクルが起こりやすい

最後に

未来の子どもたちへの財産として
市民の皆さまにいつまでも愛される場所に……



ご清聴ありがとうございました。